藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 71: 120–121, July 10, 2023

日本藻類学会第 47 回大会（オンライン北海道）開催記

小亀 一弘・仲田 崇志

日本藻類学会事務局（北海道大学）では, 2022 年 7 月になっても 2023 年 3 月開催の第 47 回大会の開催地を決めることができず焦っていました。まだ，新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか見通すのが難しい状況であり，開催をどこかにお願いするのも開催地に申し訳なく思っていました。現地開催を予定しても，感染状況がどうなるか心配ですし，懇親会は難しいと考えられました。また，オンラインやハイブリッドでお願いするよりも，現地開催できる状況の時にお願いしたい気持ちもありました。そのような時に，仲田が北海道でのオンライン開催を提案し，また大会実行委員長を引き受けることで，第 47 回大会開催に向けての準備が始まりました。北大札幌キャンパスの四ツ倉典滋先生（会計), 阿部剛史先生，山口愛果先生，北大室蘭臨海実験所の長里千香子先生，市原健介先生，堀之内祐介先生に加え，第 45 回大会（東京オンライン）の開催で実行委員だった秋田晋吾先生（北大函館キャンパス）に実行委員になっていただき，オンライン「北海道」大会としました。オンライン大会の場合，平日の方が都合のよい方，逆に平日の参加が難しい方がいるため，春分の日（3 月 21 日）を含めた 3 月 20 日（月）から 22 日（水）を会期としました。

前回大会の引継ぎ資料を参考に，最初に取り組んだのが郵便局での口座開設でした。団体名義での口座開設には審査があり，申し込みから口座が出来るまで 1 ～ 2 ヶ月を要すると聞いていました。実際には，8 月 15 日に 1 回目の申し込みを行い（これは 8 月 26 日に却下された)，実行委員会規約を修正した 2 回目の申し込み（9 月 2 日）から 3 週間ほど経って口座開設が通知されました（9 月 26 日)。

却下された理由は開示されませんでしたが,（狭義の）権利能力なき社団（人格なき社団）としての要件を満たしているかどうかが見られていたようです（確認項目の大半が権利能力なき社団の成立要件と合致していました)。今回，大会実行委員長を法律上の代表者としましたが，当初の規約では大会会長といずれが代表者か不明瞭と判断され，申請が却下されたようです。今後の口座開設の参考に，規約の該当箇所（第七条の一部）の修正前後を示しておきます（図 1)。

以後，大会案内やプログラムなどは第 45 回大会（仲田と秋田先生が実行委員として参加）の経験を踏まえて作成しました。大会ロゴは北大室蘭臨海実験所の與那嶺里菜さんに依頼し，コンブの中に様々な藻類が描かれたロゴをいただきました。新しい試みとしては，堀之内先生の担当で大会の Twitter アカウントを作成し，大会や関連イベントの案内，当日の告知などに活用しました。

オンラインシステムとしては口頭発表などに Zoom を，ポスター発表に LINC Biz を，公開シンポジウムに YouTube を，懇親会に oVice を使用しました。LINC Biz および oVice の手配は秋田先生を中心に進めていただきました。

LINC Biz は参加者ごとにアカウント登録が必要なため，登録作業を考慮して発表者以外の参加申し込み締め切りを 2 月 20 日に設定しました（発表者はプログラム作成の関係で 1 月 16 日締め切り)。今回は申し込み時期によらず参加費は同額としましたが，直前に参加申し込みする参加者が多く，参加人数が読めないところがありました。参加人数の目処をつけるためには，早期申し込み価格などを設定してもよかったかもしれません。一方で LINC Biz は随時アカウントの追加が可能だったため，契約時期を早めてもよかったかもしれません。ただしアカウント追加には 1 日ほどかかるため，当日参加を認めることは難しそうです（会費支払いの確認や，担当者の負担も考慮する必要があります)。

最終的な参加者は 225 名（一般 118 名，学生 68 名，高校生指導教員 8 名，高校生発表者 7 名，招待講演者 9 名，実行委員・アルバイト 15 名）となりました。集計方法が統一されていないため単純には比較できませんが，大会参加者の合計は第 45・46 回（それぞれ 228 名，202 名）と同程度でした。対面で開催された第 42・43 回（255 名，268 名）に比べると少なめではありますが，オンライン大会としては 200 ～ 230 名の参加が（もしあれば）今後の目安になりそうです。

今回は（も？)，高校生発表の関係者・招待講演者らに加えて，実行委員・アルバイトからも発表の有無を問わず参加費をいただかないことにしました。批判もあるかもしれませんが，特に若手や学生は手伝いを断りづらくもあり，また当日の大会運営関係者は必ずしも好きに発表を聞けないことなどを考慮し，仲田から提案しました。学会の性質上，研究者の無償協力は不可欠ですが，参加費など重ねての負担とならな

前：
会長は，本規約の下で会員の人事を扱い，また大会会長として職務を遂行する。
委員長は，会を代表して会の運営および口座の管理を行い，大会準備および実行に関わる職務を遂行し，**会長が欠員の場合は職務を代行する。**

後：
会長は，本規約の下で会員の人事を扱い，また大会会長として職務を遂行する。**また，委員長（代表者）が欠員の場合は職務を代行する。**
委員長**（代表者）**は，会を代表して会の運営および口座の管理を行い，大会準備および実行に関わる職務を遂行する。

図 1. 日本藻類学会第 47 回大会実行委員会規約第七条の一部の修正前後.

図 2. oVice 上の懇親会の様子.

いよう，今後の大会運営に向けた前例になればと考えています。

発表は口頭 43 件，ポスター 49 件（うち高校生 8 件）で，この他にワークショップ 2 件と公開シンポジウムが行われました。口頭発表の視聴者数は，A 会場（大型藻類）でおおむね 70 ～ 100 名程度，B 会場（微細藻類）で 50 名程度でした。発表者数も微細藻類研究の方が少なく，今後の増加を期待したいところです。

ワークショップはオンライン大会でも行うことができる内容として,「メタバーコーディングの基礎から応用まで」をテーマに，秋田先生のお世話により，田辺晶史先生（東北大学）と長井敏先生（水産研究･教育機構）にお話しいただきました。参加者は 70 名前後で，それぞれに濃密なお話を聞くことができました。なお，田辺先生の講演は YouTube に公開されています（https://youtu.be/AMaM2stGdqw）。興味のある方はぜひご覧ください。

公開シンポジウムは今大会の特色の一つです。初めてオンラインで開催された第 45 回大会では，演者がまだリモート発表に慣れていない可能性や著作権の問題などの懸念から，シンポジウムの一般公開は行われませんでした（第 46 回大会も一般公開なし）。しかしリモート講演や著作権への対応には，3 年に及ぶコロナ禍の中で多くの研究者が慣れつつあると思われたため，今回のシンポジウムは一般公開することにしました。世話人として土金勇樹先生（東京大学）にご尽力頂きました（仲田も共同世話人）。シンポジウムの内容は今後とも YouTube 上に残す予定ですので，ご活用ください。公開シンポジウム開催の詳細については土金先生による公開シンポジウム開催記（2023. 藻類 71: 122–123）をご参照ください。

今大会では oVice を用いた懇親会も行われました（図 2）が，残念ながら参加者は 40 名程度にとどまりました。しかしながら参加者同士では今後の研究に関わる相談や，進路に関する挨拶など将来につながる会話があったようで，一定の役割は果たせたものと思います。懇親会では豪華賞品つきのクイズ大会も行われました。長里先生・堀之内先生・山口先生らが作成したクイズの問題を紹介しますので，皆さんも挑戦してみてください（図 3）。

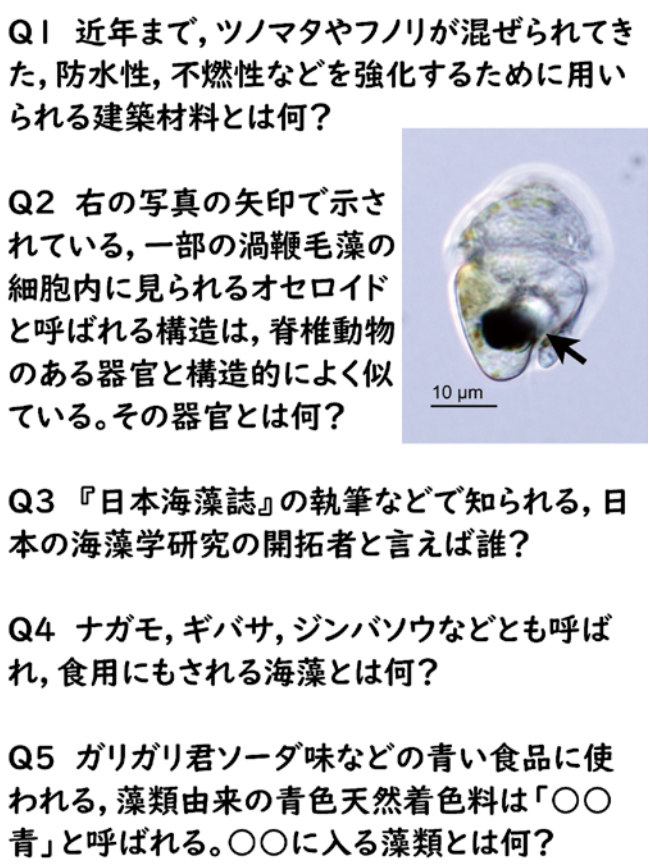

図 3. 懇親会で出されたクイズ問題（長里千香子・堀之内祐介・山口愛果作成）．正解は記事の下に.

（北海道大学）

クイズの正解：Q1：漆喰，Q2：眼，Q3：岡村金太郎，Q4：アカモク，Q5：スピルリナ（原料の藻類の現在の学名は *Arthrospira platensis* Gomont）.